

# わかば

2020. 1. 25

(令和2年)

第19-37号

文責 校長 信國 寿敏

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm>

毎週火曜日更新

**教育目標** 「帰国後、日本の教育に円滑に適応できるよう、日本の学校における学習指導要領に沿った国語、算数(数学)の学力の維持、併せて生活・生徒指導を行う。」

**重点目標** **一人一人が輝く教育** ～期待登校・満足下校～(2年次)

## 入園入学説明会及び、授業参観(1月18日)・・・ご参加いただき、ありがとうございます。

本年度も残り二ヵ月半ほどになってきました。4月11日からは、新しい園児や一年生を迎えて、スタートします。

1月18日、入園説明会、入学説明会を開催したところ、多くの希望される保護者、お子様が来校いただきました。本校への教育ニーズの高さをあらためて感じています。説明会後は、幼稚部や1年生の授業の一端を参観していただき、先輩である園児や1年生も張り切っていました。

小学部1年生の入学試験日は、2月5日(水)、また、幼稚部の入園試験日は、2月14日(金)となっています。

会場は「商工会事務所」です。お待ちしております。

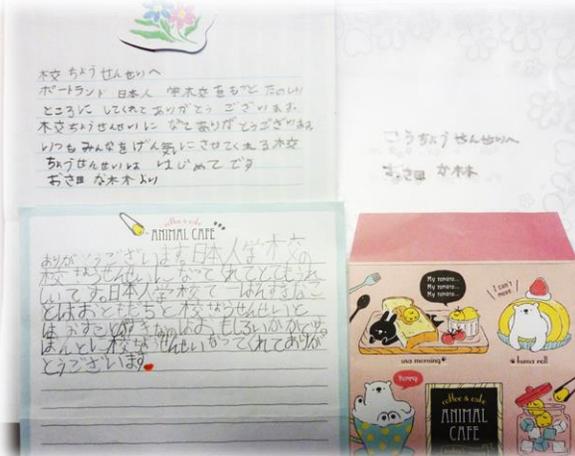


参観される希望保護者(幼稚部)



**【右】**1年生から手紙を2つもらいました。学校がとっても楽しいと言った内容でした。200文字程度の文には、ひらがな、カタカナ、漢字があり、行からはみ出していないなど、10ヵ月前までは幼稚部だった子が、これだけ立派な文章を書けるのかと感嘆するとともに、保護者や教師の教育の力にも感激しました。日本にいる同じ年のわんぱくな孫も、きっと同じように文章力がついているのだろうと思いつきながら、返事の手紙を書きました。「〇〇さん、お手紙、ありがとう! 校長せんせいより」

**【左】**高等部をドアのガラス越しに覗くと、生徒たちが床に座って楽し気にしていました。百人一首かなと思いましたが、漢字のへんとつくりのカードや語彙のカードでの学習中でした。カード遊び形式で、漢字や語彙との出会いを仕組むことは、学びの意欲を高め獲得もし易い方法ではないかと思えます。このような指導の手法は、特に補習授業校には有効だと思えます。



# 児童生徒の作品紹介32



今回は、1、2年の「冬」をテーマにした作文や5年生の旅行文、6年生の読書感想文をご紹介します。校長 信國 寿敏



## 1年生 作文

上野 はる

十二月二十六日と二十七日に、かぞくでディズニーランドにいきました。いろいろなものものにつたり、夕がたにクリスマスパレードを見たりしました。それから、かんらん車がすぐくゆれてこわかったです。こんどは、なつにいきたいです。

湯浅 穂



ぼくは、ふゆやすみにえいがかんについて、スターウォーズを見ました。こわかったところは、レイとカイロレンがビリビリされていたところです。

一ばんおもしろかったところは、さいごにカイロレンがいい人になったところです。えいがおわったら、ホットチョコのみました。

三浦 龍丸



ぼくは、おとうさんとおかあさんと、くじらを見にいきました。ぼくはくじらが、うみからとび出したらいいのにとおもいました。くじらは、とび出さなかったけれど、しおをふくところを五かい見ました。



パレードは、夢の世界に迷い込んだかのような素敵なものだと思います。スターウォーズの専門ショップがあるくらいですので、根強い人気ですね。イルカウッチングの体験はありますが、でっかいクジラを見たら大迫力まちがいなし。誰もが素晴らしい冬の過ごし方が出来て良かったです。

## 2年生 作文 「冬がいっぱい」から

「雪だるま」

元田 杏

冬、わたしはいつも雪がつもると、大きな雪だるまを作ります。どうしてかと言うと、雪を見ると、とても楽しい気もちになるからです。

また、雪がつもったら、もっと大きな雪だるまを作りたいです。大きな雪だるまを作るのがとても楽しみです。

「クリスマスツリー」

アダム エレノア



私は家ごとクリスマスツリーを買いに行きました。とてもさむくて、手ぶくろをしてもゆび先がつかたかったです。ハアとすると、いきが白くなって妹がよろこびました。

私は、冬が大すきです。

「はじめての雪」

曾根原 菜々子



その日は、とてもさむくて、外に出ることもできなかつたくらいです。メールで、パパが、「雨がふってきた。」と、言ったので、外を見てみたら、なんと！、雪がふっていました。わたしはポートルンにきてからはじめて見ました。

わたしは、うれしすぎてベランダに出ていきましました。そして、とてもつめたい雪をさわり、中にもどりました。



子どもらしい寒さや雪との出会いを無邪気に楽しんでいる様子を思い描くことができます。感動や動きがあれば、その時ばかりは寒さなんてへっちゃらなんでしょうね。やはり、「子供は風の子」かな！



5年生 作文

「ニューヨーク旅行」

竹内 美海



私は、冬休みに一週間ニューヨーク旅行をしました。

ニューヨークにある父が幼い頃に住んでいた家と学校に行きました。父の家を見ることができ、うれしかったです。父も喜んでいました。「三十年も経ち、色々と変わった」と父が言っていました。

祖父が働いていた所にも行きました。そこは、ワールドトレードセンターというビルでしたが、二〇〇一年九月十一日のテロで崩壊されてしまいました。その時はもう祖父たちは日本に帰国をして、アメリカにいませんでしたが、祖父がそこで働いていたと思うと、ゾクツと鳥肌が立ちました。

クリスマスの日には、セントラルパークでアイススケートをし、大みそかの日には、ロックフェラーセンターのとても大きなクリスマスツリーの下ですべりました。どちらもたくさんならんでいたけどフリップやスパインなど色々なわざを練習できて楽しかったです。

夕食で、ニューヨークで一番おいしいと言われているステーキ屋に行きました。おいしすぎて、家族のだれよりもたくさん食べてしまった私は、最後にはおなかがパンパンになってしまいました。でも、また行ってみたいです。

カウントダウンは、とても混雑していたけれど、ニューヨークで年越しができてうれしかったです。

最後の日には、自由の女神に行つて、ジュニアレンジャーのパケットをやり、「スタチューオブリバティー」と書いてあるジュニアレンジャーバッジをもらいました。

他にも色々な所に行き、とても楽しい旅行でした。私もがんばつて、お金をためて、将来父のように自分の子どもたちをここポートランド、オレゴンに連れて来て、今私が住んでいる家を見せてあげたいです。



「親の後ろ姿から学ばせる」と言った感じで、しっかりと子どもに伝わっているようです。1週間で、子どもは子どもなりに素晴らしい学びを体感していることが分かる作文となっています。

6年生 読書感想文

「宇宙飛行士 ぼくがいだいた夢」を読んで

江里口 壮太

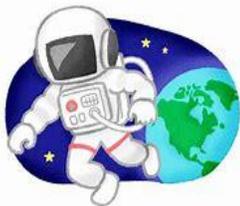
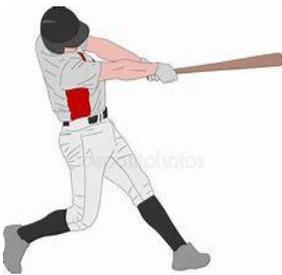
ぼくは、この本を読んで少し感動しました。それほど感動するような話ではないような気がしますが、いろいろなことがおこり、やっと宇宙飛行士になった筆者の気持ちに、感動しました。

筆者は、小学校のころの夢をずっと持ち続けてきたのです。ここでぼくは、子供のころの夢は、かなうんだと思いました。

筆者は、絵を入れながら、宇宙にいる時の説明を入れていきます。そこを読んで、「宇宙ってこんなところなんだ。行ってみたいな。」と、思いました。

最後に、筆者は子供のころの夢をだんだん広げていく事を書いていました。ぼくも、この筆者の例と同じで、夢はプロ野球選手です。その夢を少しずつかなえていければ、きっとプロ野球選手になれるんだなと思いました。

このように、筆者が夢をかなえていくところに感動しました。ぼくも、このように夢をかなえていけたらいいなと思いました。



日本のプロ野球選手は、いつかはアメリカのメジャーリーグのグラウンドに立ちたい思いが強くあります。憧れの地がアメリカのグラウンドです。壮太君もそのような夢を追い求める一人なんでしょうね。夢の実現に向かって、一步一步、一段一段と歩いて行ってもらいたいものです。



本年度の海外子女文芸作品コンクール「作文の部」の入賞作品をご紹介します。



日販アイ・ピー・エス賞

## クッタバル式典

シドニー日本人学校（オーストラリア）

小六 鈴木 睦長

平和。みなさんは平和と聞き、何を想像するだろうか。ぼくは平和と聞き戦争を思いうかべる。全くちがうものだと思う人がいるかもしれないが、実は紙一重なのである。

ぼくはシドニー日本人国際学校のスクールキヤプテンだ。スクールキヤプテンは小学部の児童代表だ。学校行事でスピーチなどをしたりする。また学校以外の外部の式典にも参加することがある。ぼくは学校代表として学校以外の外部の式典の一つのクッタバル式典に参加した。ぼくはクッタバル式典であることを知り心底感動した。

さて、クッタバル式典とは何か。クッタバルの事件とは日本海軍の特殊潜航艇がシドニー湾に停泊中の軍艦を魚雷で攻撃した時、岸べきに係留していた宿泊船のクッタバル号の底を魚雷が通過して岸べきに当たりばく発し、これによりクッタバル号がちゃんぼつして罪のない二十一人の人々の命がうばわれたものである。このクッタバル式典はこれらの亡くなった人をいれたいものである。このクッタバルの事件はとても悲げき的なものであるが、その一方で心底感動する出来事があった。先ほど述べたがねらつてもいないクッタバル号がちゃんぼつし、罪のない二十一人の命がうばわれた。また三隻の特殊潜航艇にそれぞれ二人ずつ乗り組んでいた日本海軍の六人の命が自ばくや攻撃により失われた。ぼくは、クッタバル号で亡くなった二十一人の人々の視点で考えるとどうしてなのかと

思い、日本軍の視点で考えるとこ独でさみしかったと思う。この二つを合わせて考えると、ものすごく悲げきな出来事だとよく分かる。

オーストラリア海軍は、自ばくした二隻の特殊潜航艇を引き上げて、中から四人のい体を回しゅうして海軍そうを行った。本来ならば、敵国のい体の回しゅうや海軍そうを行うことはしないだろう。しかし、オーストラリア海軍の提督は、

「このような鋼鉄の棺桶かんぼくで出げきすることは最高度の勇気が必要だ。わが軍はこの人たちが払ったぎせいの千分の一のそれを払う覚悟をしているだろうか。」

と日本軍の兵士をたたえ、反対を押し切り海軍そうを行い、い骨を日本側へ返した。ぼくはこの事件は悲げきのだと思うが、一方で日本兵をたたえた提督はすばらしく、オーストラリア海軍のやさしさが表れていると思う。

また、もし日本軍にほりよになる位なら死ぬという教育がなかったら良かったのと思う。なぜならその教育がなかったらこのような悲げきは起きなかつたと思うからだ。これは、『カウラの突げきラツパ』という本に書かれていたものだが、日本軍はほりよになることを恥とした。一方、オーストラリア軍はほりよは前線で戦った証あかしとされた。このように両国の扱いは正反対である。

もし日本軍の自ばくした四人が自ばくしなければ、その当時は終戦が近かつたので後半の人生は楽しく幸せなものになつたにちがいないと思う。本当に残念だ。

では、式典での様子はどんな感じだったか。ぼくは参加する前はオーストラリア軍にとりあまり良くない印象だと思つていたので気まずいふんいきだと予想していた。しかし、いざ式典

に参加したらオーストラリア軍の人々は過去の悲しい出来事を心のおくにしまひ、ふりかえりながらきちんとした態度でのぞんでいた。これは立派な態度だ。また、戦争をするところのようない出来事が起こるので二度と戦争をするまいということが感じられた。この式典は亡くなった二十七人の人々をいれいするものだが今の自分にはこのような悲げきを二度と起こさせないための式典に感じられた。

最初に述べたが、戦争と平和は紙一重である。ぼくが思うに、戦争をやることと悲しいことばかり起こるので、戦争を良くないと思う人が平和を築く、そのように感じている。

ぼくはクッタバル式典のおかげで昔の悲しい出来事、無意味な戦争があつたことを知つた。ぼくはクッタバル式典に参加して戦争とは罪のない人が亡くなるものだと改めて分かつた。